

Anti-Sheep IgG, Monoclonal (SHP-G 5-10E)

Code No. M284

Size: 0.2 mg Mouse Ig
/100 μ l

Subclass: IgG1

●由来

血清由来ヒツジイムノグロブリン G で感作した BALB/c マウスリンパ球とマウス骨髄腫細胞 P3U1 を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスの腹腔内で増殖させて得られた腹水。

●製法

カラムクロマトグラフィーによりイムノグロブリン (IgG) として精製後、10 mM PBS (pH7.4) に溶解して凍結。防腐剤および保護剤を含みません。

●形状 溶液凍結品 (10 mM PBS, pH7.4)

●抗体濃度 2.0 mg/ml

使用時に希釈が必要な場合は、用途に応じた希釈液を用いる。
(注)抗体濃度が低いと保存安定性が下がる可能性があるため、希釈後の保存はなるべく避けてください。

●特異性

- ・ヒツジ IgG Fab フラグメントに特異的に反応する。
- ・マウス、ラット、ウサギ、モルモット、ヤギ、ヒト IgG およびニワトリ IgY に交差反応しない。

●保存 - 20°C

本製品は防腐剤および保護タンパク質を含んでいません。解凍後、必要に応じて分注し、- 20°C で保存してください。または防腐剤 (0.1% アジ化ナトリウム等) を加えて 4°C 保存で 6 ヶ月を目途にご使用ください。凍結融解の繰り返しは避けてください。

●用途

- ・ヒツジ由来特異抗体を用いたウェスタンブロットティングや組織染色における二次抗体

本抗体を標識*後、検出用二次抗体として使用する、または 5 ~ 10 μ g/ml の濃度に希釈した本抗体 (非標識) を二次抗体として反応させ、その後に標識抗マウス IgG 抗体を用いて検出する。また、異なる抗体を用いた多重染色に利用できる。

*: 抗体の標識方法

本抗体を最適な緩衝液に置換した後、市販の標識用試薬を用いて、アミノ基を介した標識を行う。一般的な標識物質 (ビオチン、FITC、ペルオキシダーゼなど) での標識が可能である。

- ・免疫沈降や EIA のための特異抗体 (捕捉抗体) を結合する二次抗体プレート の作製

タンパク質不含の緩衝液 (PBS 等) で 5 ~ 10 μ g/ml の濃度に希釈した本抗体をイムノアッセイ用 96 ウェルプレートに 50 ~ 100 μ l/ウェルに加え、4°C で一晩吸着させて二次抗体プレート (抗ヒツジ IgG 抗体プレート) を作製する。プレートをタンパク質含有の緩衝液 (1% BSA/PBS など) でブロッキングした後、捕捉抗体としてヒツジ由来特異抗体を結合させ、免疫沈降や EIA を行う。

- ・固定化カラム・ビーズの調製

本抗体を、アミノ基を介した反応で樹脂 (CNBr-Activated Sepharose 等) やビーズへ固定化し、固定化カラム・ビーズを作製する。

●注意

本製品は研究用として販売しております。ヒト、動物への医療、臨床診断用には使用しないようご注意ください。また、食品、化粧品、家庭用品等として使用しないでください。
タカラバイオの承認を得ずに製品の再販・譲渡、再販・譲渡のための改変、商用製品の製造に使用することは禁止されています。
ライセンスに関する情報は弊社ウェブカタログをご覧ください。
本データシートに記載されている会社名および商品名などは、各社の商号、または登録済みもしくは未登録の商標であり、これらは各所有者に帰属します。

v201902

タカラバイオ株式会社

ウェブサイト <http://www.takara-bio.co.jp>

製品についての技術的なお問い合わせ先

テクニカルサポートライン

Tel 077-565-6999

Fax 077-565-6995